

編集後記：前回私が編集後記を担当したのは、2020年の春（67巻5号）でした。立正大学熊谷キャンパスのソメイヨシノが満開を迎え、新緑の葉に置き換わり始めた頃だったと記憶しています。生命の躍動を感じさせる植物たちとは打って変わって、キャンパスは人気がなくひっそりとしていました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全ての授業がオンラインに切り替わっていたからです。例年ならば「環境気象学実習」の履修生が腕をプルプルさせながらアスマン乾球湿球温度計を空中にかかげ、パイロットバルーン観測で必死に風船を追いかけて大いに盛り上がるのですが、キャンパスからパイロットバルーンの風船が放たれることはありませんでした。

結局、キャンパスで実習ができたのは夏になってからでした。それも一時的なもので、後期に入ってから

は再びオンライン授業。2020年度は一部の実験・実習を除いてほぼ100%オンラインで終わってしまいました。2021年度は待望の対面授業が再開されるもすぐにオンラインに逆戻り。梅雨が明けた頃から対面に戻り、夏季休暇中のフィールドワークも日帰り実習として実施することができました。しかし後期に入るとまたオンライン…。教員、学生ともに、右も左も分らず必死で駆け抜けた、というのが実感です。

4月から新入生を迎え、新学期がスタートします。今のところガイダンス等も含めて全ての授業を対面で実施できる見込みです。今年の春こそ、たくさんの学生の笑顔とともにパイロットバルーンの風船が放たれることを楽しみにしながら、「対面授業」の準備に勤しむ今日この頃です。

（鈴木パーカー明日香）